

ハワイアンデザインの特養、通所介護で快適さを追求 大規模な地域交流で「福祉の郷」へ



社会福祉法人征峯会 理事長 渡辺 和成氏

「これまで国のため、地域のために尽くされてきた高齢者の方々が終の棲家として明るく過ごせるように、ハワイをモチーフにした施設にしました」と爽やかな笑顔で案内してくれました。

征峯会の設立は1986年にさかのぼる。設立者は渡辺

茨城県の県西地域を横断するJR水戸線川島駅を降りると、晴れ渡った日には、東側に筑波山が眺望できる。筑波山を右手に、住宅が点在する田園地帯を車で10分移動すると、何十本もの棕櫚（しゅろ）の木々に囲まれたハワイ風の施設群が目に入ってくる。この施設群が障害者支援施設と高齢者施設であることは、設計・施工の専門家でない限り、おそらく分からないのではないか。

館内に入ると、内装デザインもハワイ風で、従業員は全員アロハシャツを着用している。理事長の渡辺和成氏は「これまで国のため、地域のために尽くされてきた高齢者の方々が終の棲家として明るく過ごせるように、ハワイをモチーフにした施設にしました」と爽やかな笑顔で案内してくれました。

征峯会の設立は1986年にさかのぼる。設立者は渡辺

施設で開く祭りの来場者は2日間で1万5000人

地域交流を進める福祉施設は珍しくないが、社会福祉法人征峯会が開く「しらとりまつり」は筑西市最大規模の祭りに発展し、商工会関係者が視察するほど活況を呈している。一方、各施設群はハワイ風の内外装デザインで統一され、障害者支援および高齢者施設としては異例の明るい空気が漂う。コンセプトは「福祉の郷」。現地を訪問した。

施設群を運営するのは社会福祉法人

征峯会である。筑西市内で、就労継続

B型、グループホーム、特別養護老人

ホーム、デイサービス、ショートステイ、

地域包括支援センター、喫茶店、パン

工房などを展開し、2018年3月期

の事業収入は15億8000万円。内訳

は障害者部門が7億円、高齢者部門が

8億8000万円だった。従業員数は

200名である。

館内に入ると、内装デザインもハワイ

風で、従業員は全員アロハシャツを

着用している。理事長の渡辺和成氏は

「これまで国のため、地域のために

尽くされてきた高齢者の方々が終の

棲家として明るく過ごせるように、

ハワイをモチーフにした施設にしまし

たと爽やかな笑顔で案内してく

れました。

征峯会の設立は1986年にさかのぼる。

設立者は渡辺

上から、しらとりまつりの大イベント会場となる広大な敷地の社会福祉法人征峯会特別養護老人ホームしらとりの芝生広場と外観、正面玄関を入るとハワイアン風の明るくモダンなロビーが広がり、行き交うアロハシャツ姿のスタッフの笑顔が眩しい。上から4段目は、地域で美味し



いと大人気の「パン工房しらとり上平塚店」と軽食、スイーツ、飲み物を提供する「カフェラバン」。

氏の実父・征男氏である。征男氏は地元選出の参議院議員・曾根田郁夫氏の秘書を務めていた。曾根田氏は元厚生事務次官で、征男氏は曾根田氏とともに茨城県内の障害者支援施設を視察して廻り、大幅な施設数不足を把握する。この窮状を克服すべく、曾根田氏の引退にともなうて征峯会を設立したのである。

征男氏は自宅の隣に「しらとり更生園」（現ピアしらとり）を開設し、知的障害者50人が入所した。「地域に開かれた家庭的で温かい、施設らしくない施設をつくりたい。父が定めた方針のもとに設立当初から入所者を地域のイベントに参加させ、施設でも住民向けイベントを開くなどの取り組みを実践してきました」（渡辺氏）

この取り組みは、毎年11月に施設を開放して開く「しらとりまつり」に発展し、2日間で約1万5000人が来場する。筑西市の人口は10万4000人だ。15000人の間違いではないかと思っただが、やはり1万5000人である。今では筑西市で最大規模の祭りに定着して、昨年は飲食物などの売り上げが2日間で780万円を計上した。

「父の方針を受け継いで、征峯会は地域と一体となった関係を築けていると思います」

そう自負する渡辺氏は、日本福祉大学を卒業後、社会福祉法人富岳会（静岡県御殿場市）の障害者支援施設に3年間勤務したのち渡英して、てんかん患者の施設で10カ月働いた。帰国した99年に征峯会に入職し、支援員、リーダー、副施設長、施設長、理事とキャリアを積んだ。

この間、05年に征峯会は筑西市から特養を民間委託として譲渡され、09年に新築移転して「しらとり」（入所80名、通所30名）を開設。障害者支援事業と高齢者事業の2本柱で発展をめざす端緒となったが、10年に征男氏が心筋梗塞で急逝した。

理事長を継いだのは征男氏夫人の早苗氏である。「まごころ」と「創意工夫」を掲げて、障害者が就労する「パン工房しらとり上平塚店・CAFEラバン」、デイサービス「しらとりハワイアンデー」（定員135名・ショートステイ40名）を開設し、征峯会の発展を導いた。だが、

新たな取り組みにも着手し、08年から通う地元の異業種経営者で構成された「高木塾」で学んだ手法を導入した。そのひとつが経営理念の策定である。「最高の笑顔を見たいから、私たちは最高の笑顔でまごころを尽くします」と明文化した。同時に様々な介護現場から経営理念を映像化した「理念動画」を制作した。映像と音楽によつて理念の理解が深まる内容に編集されている。

就労環境の改善で離職率が82%に低下

「利用者さんに最高の笑顔になつていただくには、スタッフが最高の笑顔になることが前提になります。征峯会では毎年、職員満足度アンケート調査を実施して就労環境の改善に努めています。これがいかに真剣かは理事長の取り組み方にも現れています。理事長はたんなる愚痴や不満でも見過ごさず、真摯に

急性骨髄性白血病に罹り、1年4カ月の闘病を経て16年に逝去した。渡辺氏は3代目理事長に就任し、両親の経営方針を受け継いで陣頭指揮を振るっている。



特別養護老人ホームしらとりのユニットケアのリビングの様子（右上と中央）。2階の廊下は、前面ガラスで採光が取れ明るい。右下、ユニットの入り口は、工夫されたデザインや飾りつけがされ、楽しい空間となっている。居室は、入居者が使い慣れた家具を持ち込み、自宅のような雰囲気である。（下中央）浴槽は、個浴で檜のものと地域名産の稲田石をくり抜いて作った個浴がある。



茨城県最大規模（200名定員）を誇るハワイアンサービスセンターの外観。施設に入るとその規模と利用者数の多さに圧倒される。多様なアクティビティをはじめ、①学ぶ、②リハビリ、③娯楽をテーマに250種類のプログラムを準備。レッドコードを使ってのリハビリ（4段目）他のデイサービスではみられない広々とした温水プール。毎月15名前後の新規利用者の登録があり、開設以来利用者数は着実に増えている。



理事・しらとり施設長
塙 律雄氏（介護福祉士・社会福祉士）

向き合っています」

「プロゴルフアーになる夢を諦めて、92年に入職した理事・しらとり施設長の塙律雄氏（介護福祉士・社会福祉士）は、職場改善の取り組みをそう評価する。塙氏も部下80名の全員と個別面談を年3回実施して、理念の具体化や、悩みの把握に努めている。

「やりがいを見出してあげて、やる気を引き出すことに力を入れています」といふ。

その成果は離職率の低下に顕著に現れ、法人全体の離職率は14年度12.4%、15年度12.2%、16年度9.8%、17年度8.2%と着実に低下し続けた。介護業界の平均値16.2%（17年度「介護労働実態調査」）をゆうに下回っている。

「征峰会が特養を筑西市から譲り受けた理由は、障害者支援施設の保護者会から「自分たちの子供が要介護状態に

なつても、最後まで面倒を見てほしい」と要望されたからである。現在、ピアしらとりから3名の利用者が特養に移行し、保護者も1名入所している。

「譲受時から特養の運営に従事している塙氏は、ケア体制の強化に向けてICT導入にも着手した。県から1台につき6万円補助金を得て、睡眠覚醒・在床・離床の変化をパソコンでモニタリングする「眠りSCAN」8台を設置した。

「入所者さんの安全確保や介護の段取りをサポートしています。入所者さんの介護度は3〜5が中心で、なかには看取りの方もいます。眠りSCANの導入で急変時にも対応できる体制を整えています」



施設長
渡辺 達裕氏（介護支援専門員）

入職して今年で26年目の塙氏の奮闘について、渡辺氏は職員向け文書で「市から特養を譲り受けた時、未知なる老

人分野を苦勞しながら切り開いてくれた」と讃えている。

**250種のデイプログラムに
口コミで毎月15名が登録**

しらとりハワイアンデイは、事業計画時に全国の主要なデイサービス視察して、パソコン台設置など豊富なりハビリで知られる「たんぼ温泉デイサービス一宮」（愛知県宮市）を参考に開設された。「ハワイアンデイプログラム」というプログラムは、パン作り、書道、水彩画、大正琴、プール、レッドコード、パチンコ、カジノなど250種類以上。施設内には大型浴場や、衣類を着たまま陶板浴を行うサウナルーム、カフェなども開設されている。

施設長の渡辺達裕氏（介護支援専門員）は渡辺氏の実弟である。剣道五段の猛者だが、大学卒業後は剣道から離れ、渡辺氏と同じく富岳会勤務を経て、01年に入職した。特養の事務長を経験して、しらとりハワイアンデイの開業時には利用者獲得に奔走した。

「発行部数4万部の地元フリーペーパーに広告を掲載し、遠方の



色とりどりのアロハシャツを着たスタッフの日常の活動と利用者とのふれあいの様子（上段）。地域最大規模の祭りにまで発展した「しらとりまつり」（右下）。夏の夜イベントサマーフェスティバル（中央）も地域の重要イベントに。手作りのねぶたは本格的で壮観（左下）。まるで青森の本場ねぶた祭（重要無形民俗文化財）のようだ。



上から、障害者支援施設ピアしらとりと新作業棟、3段目1階がパン工房「花水木」と2階がグループホーム「はばたき」、事業所内保育施設「くれよんハウス」、ピアしらとり地域交流ホーム「あじさい」、グループホーム「ASAHI吉番館・式番館」。日中活動支援は、パン工房、喫茶、縫製、農業、園芸、エコロジーの選択肢があり、障がい者の適正と意向を尊重し幅広く支援。

施設群の一角で営業する「パン工房しらとり上平塚店・CAFÉピアン」は地元の人気店だ。運営はピアしらとりである。パンの品数は80品以上に及び、売れ筋は「イギリスパン」「ごまパン」「チャバタ」。ラバンではバスタ、ピザ、日替わりランチ、スイーツ、ドリンクを提供している。結城病院や合同庁舎、幼稚園、保育園などにも出張販売を行

年6000万円を売上げる 障害者就労のカフェ・パン店

「小山市に元気な高齢者たちが畑仕事などをしていく地域があります。その地域には虚弱になつても介護サービスをあまり利用しないという風潮があります。が、ハワイアンテイに通えば、より自分らしい自立した在宅生活ができるようになることを伝えていきます」

「利用者さんに寄り添うことが一貫した方針で、地域活動に熱心に取り組んでいることが当施設の特徴です。ねぶた愛好会はねぶたを作って地域のお祭りに毎年参加していますし、和太鼓チームはお祭りを含めて年間約20回の演奏を行っています」

いま注力しているのは就労環境の改善である。障害者支援施設に勤務する職員は、福祉職のなかでも特に使命感

い、店頭販売、外販、カフェの合計売上は年6000万円に達している。

障害者支援施設ピアしらとり施設長の石井浩之氏（介護福祉士）は東北福祉大学卒業後、ガラスメーカーの営業職を経て98年に入職した。現職に就任したのは2年前である。ピアしらとりの利用者は入所56名、グループホーム61名、通所35名。石井氏は運営方針をこう語る。



ピアしらとり施設長
石井 浩之氏（介護福祉士）

「事務長に就任した時には3人の子育て中だったので葛藤がありました。家庭とのバランスも考えながら勉強を始めました。福祉専門職員配置等加算など各種加算の取得に重点を置いています。有資格者の採用にも力を入れていますが、仕事柄、明るくて素直な人を選んでいます」

今後、征峯会は強みである障害者支援事業に比重を置く方針だ。総合相談支援センターを開設して地域ニーズに包括的に対応できる体制を整え、障害

が強いが、そのぶん長時間労働をいとわない傾向もある。

「私たちが若かった時代は毎日遅くまで働いていましたが、燃え尽きる人もいたと思います。5年前から理事長の指揮のもとに就労時間、休憩時間、有給休暇などの運用を健全にして、働きやすさを追求しています」

ピアしらとり事務長の渡辺朋美氏（介護福祉士、保育士）は、保育園勤務を経て2000年に入職。障害者支援員、法人内託児所の保育士などを担当し、16年に事務長に就任した。



ピアしらとり事務長
渡辺 朋美氏（介護福祉士、保育士）

中央省庁の管轄機能低下や地方分権が進む時勢に、厚生労働省の方針が自治体行政に適宜反映されるとは限らない。この構造転換期にあつては、民間からの働きかけが必須である。渡辺氏は、堀氏とともに須藤茂筑西市長に面会し、小規模多機能の開設計画を要請した。創業者の渡辺征男氏が描いた「福祉の郷」構想は、次世代の経営陣によつて着実に受け継がれている。

（取材文／小野貴史、写真／片山千永子）

◆Information **社会福祉法人 征峯会**

〒308-0067 茨城県筑西市上平塚590-1
TEL 0296-28-1277 FAX 0296-28-7840 URL <http://seihoukai-group.jp/>

（事業内容）障害者施設（生活介護、就労継続支援B型、施設入所支援、短期入所、共同生活援助、日中一時支援、相談支援）、特別養護老人ホーム、短期入所、デイサービス、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター